



企画展示「政党政治の道のり—勃興と挫折—」のご案内

次回の企画展示では、明治、大正、昭和初期にかけての政党政治の歩みをふりかえるとともに、関連する人物を館蔵資料により紹介いたします。

2020年（令和2）1月8日（水）から3月30日（月）まで開催しますので、ぜひお越しください。



絵画「原敬肖像画」  
上野広一画  
憲政記念館所蔵

もう一つの議会史～国会職員オーラルヒストリー～  
櫻井 武さん（その2）

前号では、戦災で焼け出され、三宅坂に住んでいた櫻井氏が衆議院事務局に就職し、委員部で働きながら、夜学の高校と大学を卒業したところまでを掲載しました。

<櫻井 武>（さくらい・たけし）



昭和9年3月16日  
東京生まれ。

昭和23年3月29日  
臨時給仕として衆議院事務局に。

同年9月から昭和61年まで委員部で勤務。

昭和61年7月議事部資料課に。平成元年7月議事部資料課議会制度百年史編纂主幹等を経て平成6年3月31日に議事部副部長請願課長事務取扱を最後に退職。

【委員会担当となって】

—— 前は、大学を卒業する間際あたりから、ともかく委員会の担当にしてくれという話をよく上の方にされていたということでした。晴れて念願の委員会担当になったときの気持ちとか、初めて委員会に出たときの印象とかは、どうですか。

○櫻井氏 私は委員部が長いせいか、初めて担当したという感激がないんですね。外から来て急に委員会を担当すれば、議員さんとの対応で緊張したり何かするだろうけれども、委員部が長いものだから、

やることは全部わかっているわけです、ただ、やっていないだけの話で。

こうやればこうやるんだということは全部わかっているから、担当になったからといって、これといった目新しさというのがなかったですよ。

—— 本当は管理職の許可も得ていないのに、担当の人が委員室に引っ張ってきたりもしたんですよ。

○櫻井氏 文教委員会のキャップだと思うんだけど、引っ張ってきて、委員会に出てみなよとかいって、委員室に行ってみて実際の委員会を担当していました。それが課長にばれて、課長の許可を得ていないものだからキャップが怒られていたのは見ていました。

そのぐらい昔は課長とかと余り差がなかったんです。平気で口答えしたり、そんなことをやっていた。私もそうでしたから。課長だからといたって、へいとかやったことはないですから。私の方が前に入って、みんな私のことをあんちゃんといつて、幾ら偉くなっても、部下とか何かじゃなくて、お友達みたいにしてくれていたんですよ。

ただ、今までは職員とだけだから平気で冗談や何かを言っていたけれども、今度は議員との交渉が多くなってくるでしょう。それは緊張しましたね。

#### 【委員部の業務と係内での役割分担】

—— 委員部というのはどんな仕事かというのを、ちょっと解説的に御説明をお願いします。

○櫻井氏 委員部というのは、私が思っているのは、言うならば、権限のない交通整理の人が、旗を持ってダンプカーなんかをとめたりして整理しますよね。

要するに、委員会運営というのは議員

がやるわけなんだけれども、議員がやるといっても交通ルールがあるわけですよ。先例とか国会法、衆議院規則、みんなそういうルールがあって、そういうルールに従って委員会というのは運営されなければならないんです。

ところが、議員さんというのは偉い人だから、ダンプカーみたいな人だから、幾ら我々が、そういうルールがありますよ、こういう先例がありますといつてとめても、破ってくる人がたまにいるんですよ。だから、そういうところが辛いところで、あとはみんな言うことを聞いてくれますけれども、そういう交通整理をうまくやって、しかも、権限がないのにもかかわらず交通整理をやって、委員会の運営をスムーズに流していくというのが委員部の仕事です。

そのためには、根回しというのがいっぱい要るんですよ。あらかじめ各党の理事を回って、法案を取り上げる順序とか、質問者の順序とか、質問時間とか、そういうものをあらかじめ全部話して、理事に大体了解をとって、それから理事会をする。それを根回しと言っているんですけども、そういうことをやって、理事会で決めて、決めたとおりに委員会は運営されていく。こういう委員会運営の裏方の仕事がほとんどです。

そのためには、あっちの議員さん、こっこの議員さんというふうに飛び回ることになるんですよ。

だから、議員さんから信用されないとか全然仕事にならないですよ。だから、滅私奉公で、課長や部長なんかそっちのけで、委員部の担当者というのは、キャップ以下。課長や部長は全部後ろですから。部長は出てこないけれども、課長も後ろにいるけれども、全然口を出さないから

ね。キャップと我々で全部議員さんとやっっていくわけなので、だから、上司というのは余り頭になくて、議員さんの方ばかり向いてやるんですね。

委員部は、課長が何か言ったって、議員は絶対言うことを聞かないんですから。後ろから何か先例みたいなことを言うと、おまえは誰だなんて怒られる課長だっているんですよ。ふだん顔を合わせていないから、信用されていないから、何だと怒られるんです。我々は年じゅう話しているから、信用されているから、そうかとか言ってくれますけれども。

とにかく、そういった運営のあらゆる問題を事務的にこなすのと同時に、ある意味では政治的にうまくまとめて進めていくというのが委員会の運営の仕事ですね。

とにかくまさに廊下トンビだから、連絡で大変汗をかきましたよ。とにかく連絡、連絡でした。

議員さんと電話で話すことは絶対しないで、必ず先生のところに行って話すというのがコツでしたね。電話でやるとだめなんですよ。電話は顔を見ていないから、言いたいことが通じないんですよ。顔を見て話していると、何となく雰囲気に向こうの言いたいことがわかるし、こっちの言いたいことも向こうがわかるようなことがあって、だから、必ず私たちは議員さんのところに行って話しましたね。きょうは時間が変更になりましたとか、その程度のことは電話で言えますけれども、それ以外のことは、とにかく、理事会が始まる前までには全部話をしていましたよ。

—— キャップ、2番手、3番手、4番手の大体の役割分担についてちょっと説明していただけますか。

○櫻井氏 下から言うと、まず入ってきた人は頭書きといって、会議録をつくるときは、開会日時、出席した大臣以下、政府の人、出席委員、そういうのは会議録に載っている部分の一部だけれども、冒頭部分だから頭書きと我々は言っているんだけど、その部分を委員部が書くわけですよ。それを書くのが新しく入った人の役目なんです。

それはもう議員との交渉とかは一切関係ないですから、実際あったものを名前を全部覚えていて、そこに書き入れるだけだから、まさに事務だけなんですよ。まさに事務局の事務屋の典型の仕事です。委員部はそういうのが一番大事です。会議録ですから、字とか、順序とか、間違えたら大変ですから。国会議員の名前なんかを間違えると文句を言ってきますからね、選挙の票に関係しますから。だから、間違えないように、若い人が書いたのを、3番手、2番手、キャップまで、ちゃんとサインして、責任を持って点検するというのがあるんですけど、とにかく下から言うと、まず頭書きを書くのがそういう人です。

あとは、あしたの開会時間は何時から、どこの委員室ですよと各委員に前日に全部電話連絡するんですよ。そういう簡単な仕事、そういうのも全部一番下の人か、あるいは忙しければそのすぐ上の人もやりますけれども、もう係長以上はそういうことはやりませんね。

係長以上は、とにかくあちこち走り回るのが役目ですよ。キャップはもちろんだけれども、係長も、あっちの党へ行く、こっちの党へ行くと分けてやりますから。一緒に行くときもありますけれども。キャップと係長はそういう仕事で、あと下の方は、全部そういう本当の事務

の仕事です。

それで、キャップと2番手の人たちの仕事というのは、全部事細かに課長、部長に報告する役目もちろん持っていて、あと、先例の資料というか、先例になったものは全部書きとめておいて、閉会になると、それを出して先例会議にかける、それもキャップと2番手の担当係長の仕事でしたね。

委員部というのは、一課から調査課まで全部委員会を持っていますから、どんな人でも、委員部へ来て、委員会に出れば、必ず議員さんとの接触はありますからね。だから、委員部はとにかく議員さんとの信頼関係がないと務まりませんね。そういう仕事場ですね。

とにかく、緊張したことは確かに緊張しましたよ。いいかげんなことではできない仕事でしたね。本当に命がけでやったんですよ。手なんか抜いたら本当に大変でしたよ。



課長の机でパチリ

#### 【大蔵委員会担当】

—— 昭和31年に大蔵の5番手になったんですね。

○櫻井氏 大蔵委員会は、やったことは覚えています。ただ、とにかくまだ下っ

端で、学校を卒業したばかりのときだから、春日一幸さんに坊主とか息子とかと呼ばれたことぐらいしか覚えていないですね。

大蔵委員会というのは、定宿<sup>1</sup>が第十委員室<sup>2</sup>なんですよ。第十委員室というのは出入り口が一カ所しかないんですよ。普通の委員会は前と後ろにあるんだけど、後ろに一カ所しかないでしょう。そうすると、議員さんも傍聴人も我々も全部そこから出入りするわけです。

それで、我々事務局の席は野党側の社会党の席の真ん前なんですよ。そうすると、そのころ春日一幸さんというのは大蔵委員会の理事で、私のことを気に入ったらしくて、おい、息子と呼ぶんですよ。何か用ですすぐ呼ぶんですよ。そうすると、はいとって私がすぐ行って、何か頼まれて、秘書に連絡しろとか言われてずっと出ていくと、傍聴人が、あの人は息子さんかしらとか言っているのが聞こえましたよ。違うよと言いたかったけれども。

あの人の口癖で、我々若い人を小僧とか息子とか、そういう呼び方で呼んでいましたね。おい、君とかというんじゃないくて。

#### 【与野党の対立と委員部】

—— 長い御経験の中で、この時代は乱闘だ何だというのがあって荒れていたとか、どうですか。

○櫻井氏 何の法案でもめたかというよりは、もめた事実しか覚えていないんですよ。何かほかの委員会を担当していても強行採決をしょっちゅうやっていたでしょう。

<sup>1</sup> 各委員会が利用する委員室は決まっている訳ではないが、各委員会それぞれに比較的よく利用される委員室が

あり、その委員室を定宿と呼ぶ。

<sup>2</sup> 現在の第五委員室。

それで、乱闘するときは、乱闘をしかける野党側の議員が、万年筆とか手帳とかを全部我々に預けに来るんですよ。袋はないかとかいって、それで袋を出すと、そこにみんな手帳とかをポケットから出して、ああ、これは始まるなというのがすぐわかるんです。それがあって、「委員長」といって質疑打切りの動議が出た途端にわあっと行くんですよ。それが合図だから、与野党もあうんの呼吸でやっていたような感じでした。

それで、後ろに秘書たちがいっぱいいて、そういう乱闘のときは、強行採決のときは見ていますから。だから、国会議員も活躍しないとうまくないわけです。だから、そうやってみんな、傷む物は全部出して、それでわざと安い背広を着てきて、袖が切れたとかなんかいって、そういうようなのを覚えています。

速記者がけがをしたことがあるんですよ。だから、国会職連といっって、組合から各党に、速記者には乱暴しないでくれといっって嚴重申入れをしたことがあるんです。それ以降、速記者にはさわるなということを各党全部知っていて、委員長の下が速記者席ですから、普通なら速記者だって巻き込まれるわけだけれども、速記者のところにはわあっと行っても、もちろん速記者だってよけますけれども、けがをするほどではなかったですね。

委員部も、委員長のそばから離れて、さっと逃げましたよ。だって、委員長は読むものは持っているんだから。

そんな、感じだったので、突然の乱闘というのは余り記憶にないですね。とにかく、乱闘はしょっちゅうやっていたね。

本会議で何日間も泊まったことは何回かありましたよ。

我々は委員部だから余り本会議と関係はないけれども、議運<sup>3</sup>の担当をしているときなんかは、本会議をやっているときは絶対に手を抜けないから、見ているわけですよ。それが3日も4日も徹夜が続くとくたびれ果てちゃって、そういうのはよく覚えていますね。

事務局がかわりに、議場参事がかわって投票できることになっているんですよ。例えば、その議員が足が悪いとかそういう人のために、議場参事がかわりに札をもらって、白札、青札<sup>4</sup>をもらって投票することができるんです。

それで、議事部の人もくたびれ果てているから、委員部から出せというので、我々も行って、にわか議場参事になって、投票が始まると、申出のあった議員さんのところにすっって行って、私がかわりについて、頼むと言われて投票していました。だから、私は議員さんのかわりに議場で投票したことは何回もありますよ。

### 【安保国会】

—— いわゆる安保国会、あのときの雰囲気とか、聞かせていただければと思います。昭和35年、農林のときですね。

○櫻井氏 覚えていますよ。デモが国会の中まで入ってきちゃって、学生とか労働者たちで埋め尽くされたわけですよ。それで、わっと渦巻いているわけですよ。

それで、警官が放水したりしてとめるんだけれども、大混乱になって、警棒で殴られてけがをした人が、議員面会所のあの広いところに、椅子を外して、応急

<sup>3</sup> 議院運営委員会の通称。議院の運営に関する事項その他について審議又は協議する。

<sup>4</sup> 記名投票の場合、賛成の議員は自分の氏名の書かれた白い木札、反対の議員は青い木札を投票する。

処置で、国会の医務室の先生とかが手当  
てしているんですよ。それが大勢いるも  
のだから、何か血なまぐさいというのを  
初めてそのとき経験したんですよ。何か  
生臭いにおいがして、これが血なまぐさ  
いということかと思ったぐらいに恐怖を  
覚えたんですよ。だから、よく覚えている  
んです。

それで、デモの人たちは、国会の柵の  
内側にいる人は全部敵だと思っているの  
で、我々は関係ないのに、窓から顔を出  
すとか、そういう指令が来ましたよ。  
敵だから、石をぶつけられるから、とに  
かく静かにしておけ、一切見たりするな  
とか言われて、建物の中まで入ってきた  
ら大変だと思って、すごく怖かったです  
よ。そういうことを覚えています。

学生たちが国会のあの広いところで  
ぐるぐる渦を巻いてデモをやるわけだ  
ですけども、渦巻き行進。それで、議  
員さんもそういう人たちに手を振って  
いるのを我々は後ろから見ていました。  
だから、何にもできなかったというの  
が本当のところですよ。

ただ、あのときは農林だったとすると、  
農林の部屋も多分、議員面会所の方だ  
と思うんですよ。だから、余計に血なま  
ぐさいにおいをかいだというのがあって、  
それが一番印象的でしたね。

とにかく、警官とデモとが真正面から  
体当たりしたんですよ。それでまた、警  
官が、建物の中に入られては困るから、  
今までの遠慮していた感じではなくて、  
警棒で片っ端から学生を殴ったんです  
よね。だから、頭や体から血を流しながら  
倒れる人がいました。

#### 【議院運営委員会担当係員】

○櫻井氏 議院運営委員会は長かったけ  
れども、議運のときは直接議運の委員と  
は関係はないけれども、各党の国会対策  
とか、そういった連絡とか、それから、  
議運には部長たちが全部来ますから、国  
会事務局の幹部が全部そろうわけです  
から、それで神経も使いましたね。

それから、資料を理事会に配るときに、  
事務局の案を三つも四つも総長がつくる  
んですけども、命令されて、その資料  
を持っているんですよ。そのときに、ど  
の案を配るかわからないので、総長の顔  
を見ながら待っているんですよ。そうす  
ると、総長が指で合図するので、あっ、  
2番って出したとって配るんです。そ  
の反応とか、そういうのは神経を使いま  
したね。

—— 特に議運の4番手時代はどんな  
ことをやっていたんでしょうか。

○櫻井氏 いや、ほかの委員会をやっ  
ていたときより、とにかく全然違うので  
びっくりしたことは覚えているけれども、  
言われるがままにやっているうちにだん  
だん慣れてきましたね。

とにかく、議運は、なれと、総長との  
空気を読むという、議員さんより、総長、  
部長の関係でしたからね。

だから、委員会をやっているときでも、  
総長がたばこの煙を払ったりすると、窓  
をぱっとあけたり、そういう勘働、そ  
れが気に入られたんだと思うんです、こ  
んなに長くやったのは。それくらい、総  
長の顔をじっと見ていたもの。それで、  
わからないときは衆議院要覧<sup>5</sup>を持って  
いって、はいと渡すんですよ。そうす  
ると、これこれと用事を言うんですよ。と

<sup>5</sup> 衆議院要覧（甲）には憲法をはじめとする国会関係法  
規が掲載されている。

にかく、そのくらい緊張して空気を読んでいました。

用事があったようなふりをして持っていくと、何々と言うから、それをぱっとやる、そのぐらいの敏感さ、ほかの委員会じゃそんなことはないですよ、それがいろいろ総長に気に入られたというか、ほかの人もそうやっているかもしれないけれども、我々4番手というのはそういう役目ですから。

しかも、サロン<sup>6</sup>の委員部の席というのは、一番下っ端は総長の方を向いているんですから。みんなは議員の方を向いているでしょう。それを、ぺいぺいだけは一番端で、完全に総長の方を向いているんですよ。だから、そっちの方をじっと見て、理事会のときももちろんそうだけれども、委員会をやっているときはずっと総長につきっきりでした。

だから、36年に担当になって、ほかの委員会と議運との一番の違いは、もっとほかにもあるけれども、総長との交流というか、それでしたよ。

—— 委員会が始まる前とか前日は、4番手というのはどんな感じでしたか。  
○櫻井氏 議運のときは、4番手は前日は余り関係なかったですね。連絡もしないですから。議運委員会があしたありますから来てくださいなんていう連絡をしなくたって、議運の理事と国対は一緒だから、みんな党の国対の方から。議運の理事は、理事会なんかなくたって、年じゅう議運の委員長室に詰めて碁をやったり将棋をやったりしているから、それこそそういう事務的な連絡は何にもないんですよ。

総長室の隣が議運の委員長室で、ずっと長い間そこで議運の理事会をやっていたけれども<sup>7</sup>、議運の委員長室には人が年じゅう来ていましたね。議運の委員長もそれが当たり前だと思っていて、それで、私なんかも、3階と2階だけれども<sup>8</sup>、よく遊びに行きましたよ。

議運のときの失敗と普通の委員会の失敗とは全然違いますからね。議運の失敗というのは総長の責任になっちゃいますからね。そういうのが一番緊張したんだろうな。怖かったよ。

言いたくないけれども、切腹物のときもありましたよ。総長に頭を下げさせたのは私ぐらいじゃないのかな。大失敗して、総長が国対委員長室へ頭を下げに行きました。それは私の失敗なんです。よく首にならなかったと思いますよ。総長を謝らせたのはおまえだけだとか言われましたよ。

委員会はもう本当にやりたくないよ。夢で見そうです。

(以下、その3に続く)

<sup>6</sup> 議長応接室の通称。議院運営委員会は通常議長応接室で開かれる。

<sup>7</sup> 現在は議院運営委員会理事会室が別にある。

<sup>8</sup> 委員部の議院運営委員会担当の事務室は国会議事堂3階にあり、議院運営委員長室は2階にある。

## 新たな憲政記念館と代替施設について

12月3日（火）の衆議院議院運営委員会新たな国立公文書館及び憲政記念館に関する小委員会では、政府から「新たな国立公文書館及び憲政記念館に係る基本設計」及び「憲政記念館の代替施設の概要」が報告され、妥当なものとされました。政府は今後、新施設の実施設設計を取りまとめ、その概要を小委員会に報告することとなりました。

基本設計では、新施設は地上3階地下4階、総建物面積は約42,460㎡、今後は、実施設設計が令和2年度末まで行われ、令和8年度中の完成、開館が予定されています。

工事期間中の憲政記念館代替施設は、国会参観バス駐車場の北側にある国有地に設置され、現在の憲政記念館の会議室や展示、収蔵といった主要な機能を維持することとなります。今回の小委員会では、政府から、代替施設の総建物面積が約3,200㎡であることが報告されました。今後は、今年度末まで設計が行われた後、令和2年度中にも工事に着手、令和3年度中に完成、移転が予定されています。



[内閣府 HP (<https://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/kentou/20191118/shiryu3-1.pdf>)  
より新国立公文書館（左）及び新憲政記念館西側外観部分（右）を抜粋]

### <当館移転作業に伴う資料取扱について>

憲政記念館は、建替工事のため、令和3年度中にも代替施設へ移転することとなっております。移転に伴う諸作業のため、既に資料の受け入れについては停止しているところですが、所蔵資料の閲覧・貸付・写真撮影等への対応につきましても、令和2年1月以降、停止することとなりました。ご了承ください。

【発行人】 小松 幸喜 【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館  
【編集責任者】 高橋 和彦 〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1  
TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。